



一般財団法人アーネスト育成財団
(Earnest Upbringing Foundation)

技術経営人財の育成に取り組む公益性のある財団

令和2年(2020年)4月開校

<地方を元気にする>

西河技術経営塾入門講座(高崎) 1期生募集

主催 : 一般財団法人アーネスト育成財団
協賛 : 小坂建設株式会社 (群馬県沼田市)

変革をつくる「技術経営学」を学び、
豊かな社会づくりに取り組むことができる
技術経営人財を養成する
地方の企業を元気にする

西河技術経営塾入門講座での学びと成果

1. 日本的技術経営研究の成果を学ぶ
2. お金は企業の血液であることを学ぶ
3. 売上を10倍にする西河技術経営学を学び、雇用を増やし、税金を払う
4. 実践的思考、変革的思考を受講生参加型で育成する
5. 誠実な経営人財を育成する
6. 経営者を目指す管理者が学び、学んだことをすぐ経営に生かす
7. 西河技術経営塾への入門講座として位置付ける

● 西河洋一塾長・理事長の挨拶

地方の企業が元気になって、日本は活性化する

財団を作ろうと思ったのは「起業が少ない」、そのためには「経営ができる人財を育成しよう」「経営ができる人財を育成する機関が日本には見当たらない」という問題に気付いたからです。当財団は、日本の持続的な成長と活性化を目指し、事業をするための技術経営人財を育成するためのセミナー、研修、研究委員会などを実施してきました。

日本を元気にするには、過疎化する地方の再生が課題の一つです。地方にある会社を元気にし、収益をあげ雇用を増やし、税金を沢山払える会社にする。そのための人財育成に、今回、群馬県高崎地区の経営者からの要請もあり、経営者を目指す、経営人財の育成に取り組むことにしました。



西河洋一塾長・理事長

● 『西河技術経営塾入門講座』の概要

経営者を目指す管理者のための実践経営スクール、技術経営ノウハウを個別指導する

未来に向かって経営計画を立てて、社員と共に取り組むのが経営です。企業理念で経営目的を明らかにし、理念を実現するためのビジネスモデルを構想し、ビジネスモデルを実現するための事業計画を中長期的な視点で作成します。次に事業計画達成のための、具体的な戦略を組織構成員に明らかにします。戦略は、具現力であるエンジニアリングに裏付けされた戦術で組み立てることが必要です。実行に当たっては、企業力である「ヒト、モノ、金」で裏付けされていなければなりません。

本入門講座では、常に技術と絡んだ経営学を学びます。演習では、経営を支えるエンジニアリングに言及することで、技術経営に取り組むためのマネジメント手法を学びます。

未来を向いて経営することを学ぶ

「経営は未来学」といわれます。常に未来に向かって経営計画を立てて社員と共に事業に取り組むことで、計画の実現が可能となるからです。経営トップは、最初に明確な経営の目的である企業理念をもち、理念を実現するためのビジネスモデルを明らかにする必要があります。

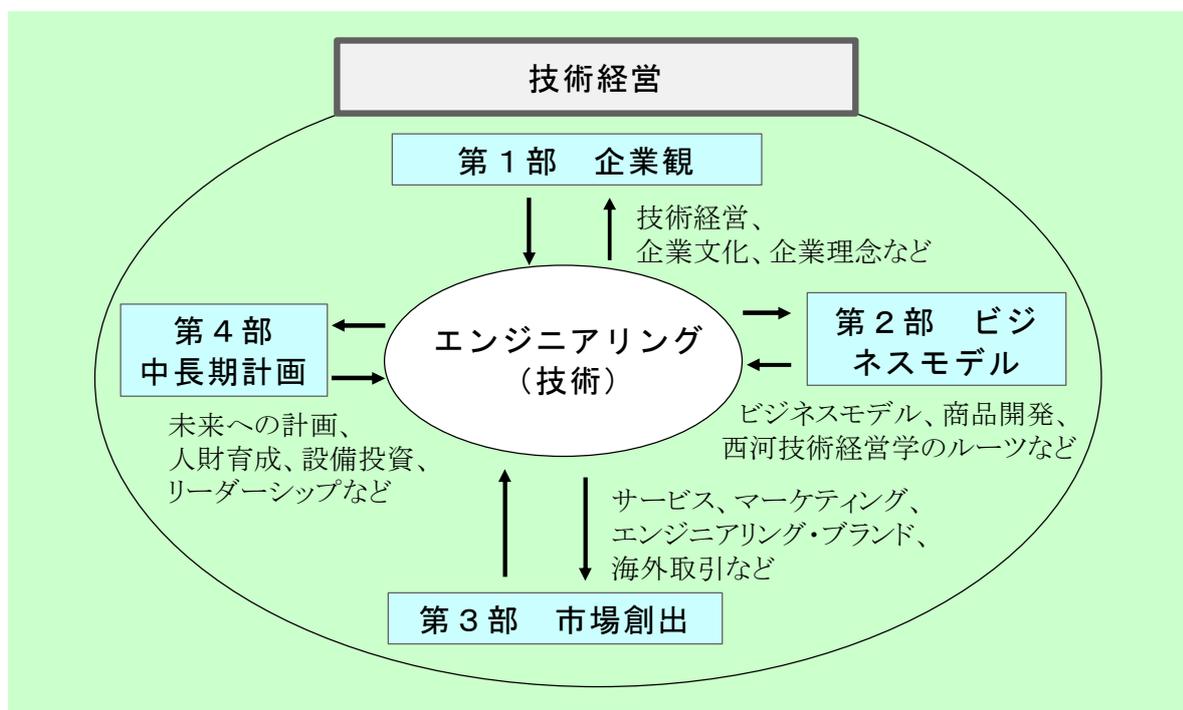
次にビジネスモデルを実現するための事業計画を策定し、その事業計画は、3年とか5年とかの中期的、長期的な時間軸を意識した経営計画として作成します。作成した計画を実行するにあたり、取り組むべき戦略を社員と共有することができます。

戦術、戦力によって裏付けされている戦略づくりを学ぶ

経営戦略は、強みの源泉であるエンジニアリングの存在を意識し、具現力であるエンジニアリングに裏付けされた戦術が明確でなければなりません。まさに戦術は、企業力である「ヒト、モノ、金」という実現性のある調達可能な戦力が準備されてのことです。

経営学ではよく戦略重視といわれます。だが、戦略だけが一人歩きしても、それを実行するために必要な技術の存在を意識した、技術経営戦略でなければ実行することはできません。

エンジニアリングを理解した組織構成員がいて、その技術が組織のヒトに根を張っていなければ、実行する戦術とならずに絵に描いた餅になってしまうからです。



財団が取り組む「経営人財の育成」と「『地方創生研究会』での研究成果」を実践する

地方創生、地方の企業が元気になって雇用を生み出し、税金を沢山地元に落とすことで豊かな地域づくりに貢献できます。これは、財団が取り組んでいる「地方創生研究」の成果です。この成果を実践する取り組みを始めます。

今回の西河技術経営塾入門講座（高崎）は、協賛企業でもある小坂建設株式会社の小坂哲平代表取締役の尽力によって実現しました。

● 講義概要

講義と演習を組み合わせ、実践的参加型学習に取り組む

本講座は2020年3月に芙蓉書房から発刊される『西河「技術経営学」入門』を使った講座を開催します。

『西河技術経営塾』の入門講座としての位置付で、平易に「技術経営学」を学習し、実務で生かすことが出来るよう演習に取り組みます。

技術経営を概括すると、エンジニアリング（技術）が経営の中心にあり、その周りに「企業観」「ビジネスモデル」「市場創出」「中長期計画」の4つの経営課題が配置されています。それぞれの経営課題は、技術と連携しながら活動をしています。本講座は、4部構成、14章で組み立てられています。

経営を支えている技術の存在を学ぶことで、未来を見据えた戦略的経営に取り組むことが出来るようになります。技術経営とは、会社の未来を切り開く、未来学です。コトづくりでもモノづくりでも、エンジニアリングが経営を支えています。エンジニアリングは、経営を支える具現力であり、切り離すことはできません。

企業理念、ビジネスモデル、中長期計画、市場創出は、エンジニアリングと関わり合いを持つことで、機能しています。

1. 期間：令和2年（2020年）4月～7月
2. 実施日：土曜日、月2回、8回開催（下記にスケジュールを示す）
3. 時間：
 - (1) 講義1：午前10時20分～午前11時50分
 - (2) 講義2：午後1時～午後2時30分
 - (3) 演習1：午後2時40分～午後3時40分
 - (4) 演習2：午後3時50分～午後4時50分

● 開講日、講義名称と演習課題

章	開講日	講座名称	講師担当	演習課題
	2020年	<第1部 企業観>		
	4月11日	開塾式、ガイダンス（小平）	西河	自社の紹介と自己紹介。受講目標の設定と意見交換。
1		（第1章）技術経営とは何か	小平	
2		（第2章）企業文化とアイデンティティ	小平	
		<第2部 ビジネスモデル>		
3	4月25日	（第3章）ビジネスモデルづくりを学ぶ	小平	演習：自社のビジネスモデルと経営理念を報告する。
4		（第4章）商品開発の取り組み	杉本	
5	5月9日	（第5章）モノづくりを学ぶ	杉本	演習：自社のSWOT分析を報告する。
7		（第7章）サービスをビジネスにする	小平	
		<第3部 市場創出>		
6	5月23日	（第6章）西河技術経営学のルーツを学ぶ	西河	演習：商品開発戦略またはモノづくりやコトづくりを報告する。
8		（第8章）ICTを活用した新規ビジネス	小平	
9	6月6日	（第9章）海外取引の基礎知識を学ぶ	浅野	演習：ICT戦略またはサービスビジネスに関し報告する。
10		（第10章）エンジニアリング・ブランドづくり	小平	
		<第4部 中長期計画>		
11	6月20日	（第11章）経営は未来学、中長期計画を立案する	小平	演習：エンジニアリング・ブランド戦略を報告する。
12		（第12章）プロジェクトマネジメントを学ぶ	浅野	（課題発表「講座で何を学んだか」に関するガイダンス）
13	7月11日	（第13章）イノベーションを企画する技術経営	小平	演習：自社の中長期計画と課題発表のテーマを報告する。
14		（第14章）マネジメントとリーダーシップの違い	小平	
		<第5部 成果報告>		
15	7月25日	審査会：課題発表会	西河	審査会：課題発表会
		最終発表	西河	修了式

● 講師の略歴紹介

西河 洋一(にしかわ よういち)

- ・学歴 2009年芝浦工業大学大学院工学マネジメント研究科(MOT)修了
- ・職歴 1982年に和田建設(株)、99年伏見建設(株)(アーネストワンの前身)に入社、2000年(株)アーネストワン代表取締役社長、13年同社取締役会長(現在)、13年飯田グループホールディングス(株)代表取締役社長(現在)、12年当財団理事長(現在)。
- ・資格 一級建築士。
- ・学会など 日本開発工学会会員、一般社団法人MOT振興協会理事。

小平和 一朗(こだいら かずいちろう)

- ・学歴 1970年芝浦工業大学電子工学科卒、2005年芝浦工業大学大学院工学マネジメント研究科(MOT)修了、2007年芝浦工業大学大学院工学研究科博士(後期)修了(博士(学術))
- ・職歴 1970年大倉電気(株)入社、技術部長、経営企画室長、情報通信事業部長(2002年まで)、2004年(株)イー・ブランド21設立し代表取締役(現在)、14年～15年東京経済大学技術経営実践スクール講師、12年当財団を設立し専務理事(現在)。18年敬愛大学経済学部特別講師(現在)
- ・学会など 日本開発工学会理事・運営委員長、学会誌「開発工学」編集委員長、研究イノベーション学会など。

浅野 昌宏(あさの まさひろ)

- ・学歴 1969年芝浦工業大学電子工学科卒
- ・職歴 69年丸紅飯田(株)(現丸紅(株))入社、76年リビア通信工事事務所長、82年アブダビ通信工事事務所長、89年通信機械部通信機械第二課長、93年通信機械部部長代理、94年ナイロビ支店長、98年(株)グローバルアクセス代表取締役社長、99年丸紅ネットワークシステムズ(株)代表取締役社長、2002年(株)JCN南横浜代表取締役社長、06年(株)JCNコア代表取締役社長、07年(株)JCNコア葛飾代表取締役社長、09年(株)JCN関東常勤監査役、14年当財団理事(現在)、飯田グループホールディングス(株)社外取締役など。
- ・学会など 一般社団法人アフリカ協会副理事長(現在)、日本開発工学会会員。

杉本 晴重(すぎもと はるしげ)

- ・学歴 1970年早稲田大学理工学部電気通信学科卒
- ・職歴 70年沖電気(株)入社、90年電子通信事業部複合通信システム事業部技術第一部長、98年OKI Network Technology President、2000年沖電気執行役員、02年研究開発本部長、04年常務取締役・CTO、06年中国ビジネス本部長、08年(株)沖データ代表取締役社長・CEO、12年沖データ、沖電気取締役、14年当財団理事(現在)など。
- ・学会など 日本開発工学会会員

アシスタント講師

小坂 哲平(こさか てっぺい)

- ・学歴 2003年芝浦工業大学工学部土木工学科卒
- ・職歴 2003年大林道路(株)入社、05年小坂建設(株)入社、14年小坂建設(株)代表取締役(現在)。
- ・資格 一級土木施工管理技士、一級建築施工管理技士。
- ・学会など 日本開発工学会会員

● 西河技術経営塾入門講座募集(1期生:2020年4月～2020年7月)要領

- (1) 募集期間: 2020年2月～2020年3月
- (2) 会場: 群馬県高崎市白銀町9 白銀ビル内会議室
- (3) 受講料: 8万円(税抜き) (申込頂いたら、後日請求書をお送りします。宛先が会社の場合明記して下さい。)
- (4) 募集定員: 最大10名(定員になり次第〆切となります)
- (5) 応募資格: 年齢 28～50歳程度、仕事に従事
- (6) 申込方法: 氏名、年齢、性別、所属、職制、住所、電話番号など、Eメールを明記して、Eメール (office@eufd.org) またはFAX (03-6276-2424) にて、申込みをお願いします。

(申込) 私は、「西河技術経営塾入門講座」への参加を申し込みます。

住 所 :
氏名 (フリガナ) :
会社名 :
役 職 :
年 齢 (歳) :
電話番号 (携帯) :
メールアドレス :